

地球ギャラリー vol.25

Pakistan

[パキスタン]

文・写真=鈴木 革(写真家)

Ibrar Tanoli(ジャーナリスト)

フンザの憂鬱

避難所生活を送る崩壊地アタヴァッドの被災者。女性は4人の子どものうち2人を失った



D



F



E

D.観光地とはいえ訪れる外国人は少ない。興味津々の子どもたちも、容易には寄って来てくれない
E.ジャガイモの花。ジャガイモはフンザの名産品。平野部へも送られ、カレーの材料となっている
F.急傾斜地のわずかな土地に段々畑をつくり、昔ながらの農業を営む人々



A



C



B

A.四大文明の礎となった大河「インダス川」。左手にカラコルムハイウェイが見える。フンザまでこうした険しい峡谷が続く
B.カリマバードから見るフンザの秀峰ラカシ山(7,788メートル)。この辺りは美しい峰々が四方に鎮座し、世界中から観光客を呼ぶ
C.目の前まで迫る湖。町が水没していることがよく分かる。グルミットにて(撮影:Ibrar Tanoli)

2010年1月4日。パキスタン北部の山岳地帯フンザ地方で大規模な山崩れが起こった。インダス川の支流であるフンザ川の峡谷で西岸のがけが崩壊し、2300メートルの区間が埋まったのだ。土砂は寒村アタヴァッドを直撃。犠牲者は19人に上った。だがこれは問題の序章に過ぎず、悲劇は数カ月をかけてゆっくりと現れ始める。

2010年6月1日。10年ぶりのフンザ、風光明媚の町で知られるカリマバードに到着した。がけの崩落地より下流にあるカリマバードは、眼下に見えるフンザ川の水量が少ないことを除けば、以前と何も変わっていない。しかし、町一番のホテルが報道関係者で溢れ、ほぼ満室だった。崩落でせき止められ、次第に水位を増して大きなダム湖になっていった川が5月、満水に近づいてきたため、ダム湖の決壊が心配されていたのだ。事態を案ずるニュースが流れる毎日。偶然宿泊したホテルは、まさに取材の前線基地だったのである。

だが、ダム湖決壊の危機は日本ではほとんど知られていなかった。観光気分だった気持ち切り替え、この現実に向かい合うことにした。



G.被害から免れたわずかな土地を確保するため、男たちの作業が続く。グルミットにて(撮影:Ibrar Tanoli)



地球ギャラリー
vol.25

I.仮設テントの幼年クラスの授業風景。環境に負けず元気に勉強
J.避難所の教室で暮らす崩壊地アタヴァッドの人々。厳しい環境の中、身を寄せ合うように暮らす
K.町から避難所に配給される昼食。貧しくても助け合いの精神は深く根付いている
L.帰る土地さえなくなった人々は、いつこの避難所から抜け出せるのだろうか。ただ元気な子どもたちが未来の希望
M.アルティットの学校の校庭に並ぶ仮設テント。教室や医療施設も設置されている



H.仮設テントの教室で行われる12~13歳のクラス。イスラムの国だが、ここでは男女共学。少女たちの真剣なまなざしに心の中で応援

6月時点の現地の情報では、ダム湖は満水を迎えて水が流れ始めている。しかし、決壊の兆候は認められず、このままでは湖の存在が恒久的にもなり得る。湖は最大幅500メートル、長さ30キロに及ぶが、この谷筋には中国へ続く国際道路カラコルムハイウェイがあり、水没によってすべての物流が停止している。さらに道路沿いの3町村も、水害によって甚大な被害に見舞われている。

具体的には、最も下流にある人口約300人前後のアウイナバード村が完全に湖底に沈んだ。さらに、人口約3000人のシシケットは85%が、人口約4000人のグルミットは35%が水没。そのため、家や土地を失った多くの人々が、カリマバードの学校などでの避難生活を余儀なくされている。訪問したカリマバードと隣村アルティットの学校には、被災者が各300~400人ほどいるというが、中には親類の家に世話になっている人や、やむなく都会へ出稼ぎに行った男たちもいて、

実際の被災者の総数はかなりの数に上ると見られる。

避難所で暮らす被災者から話を聞くと、皆一様に将来の不安を口にした。フンザは、峡谷の狭い土地で農業を営みながら、独自の歴史文化をはぐくんできたかつての独立国である。この深い谷間では水没した土地の代わりなどあるはずもなく、農民たちは生活の基盤を完全に失ってしまった。仮に都会や平野部への移住を勧めようにも、夏の気温が40度を超える下流部での暮らしは山地民族には困難であるし、ましてイスラム教といっても平野部のスンニ派からは異端とされるシーア派イスマール派の信者ゆえ、風俗や習慣からしても共存は難しい。山溪の清流に棲む溪魚に、中流のぬるい濁り水で生きていけとは言えないのと同じだ。

彼らの切実な訴えを聞き、自らが存在すべき場所とそこで抱く未来の希望が、人間にとっていかに大事なものであるのかを切に感じた。



M



成人識字センターへ通う女性。「センターに来ることが楽しく、自分の名前が書けるようになり、自信がいった」と笑顔を見せる



JICA専門家と地元の農業大学の研究者から、節水型の稲作について説明を受ける農民組織の役員たち



子どもに薬を処方するJDR隊員。9月14日からは医療チーム二次隊が活動を開始

JICAの活動 in パキスタン

貧困層に届く支援で安定した国の発展を

世界第6位の人口を有し、多くの貧困層を抱えるパキスタン。JICAは、経済・社会の安定化に向け、貧困削減・経済成長に重点を置いた支援を行っている。

不安定な政治・治安情勢や男女格差など不平等な社会構造を背景に、パキスタンでは国民の約3割が貧困層だ。また、教育・医療といった基本的な社会サービスが不十分な地域も多い。こうした背景の下JICAは、同国の平等な社会と安定した経済発展を後押しすべく、教育、農業、インフラ整備などの分野で協力を行っている。

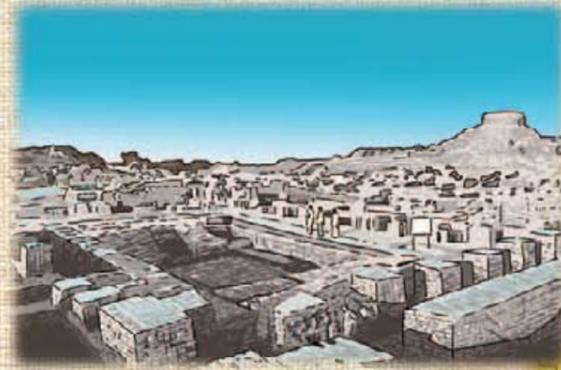
教育分野では「識字教育」を支援。パキスタンでは約2人に1人が文字を読み書きできない。そのため、国内最大人口の東部パンジャブ州では、州政府が5～14歳の非就学児童に対する「ノンフォーマル小学校」、成人の非識字者に対する「成人識字センター」などを開設・運営し、基礎教育・識字能力レベルの強化を図ってきた。しかし、的確な場所への学校の設置や各地域の教育ニ-

ズの把握など、基礎教育・識字教育を平等に提供するのに必要な情報・データの収集・活用といったマネジメント能力が不足していた。そこでJICAは、データを活用した教育の計画・運営方法を指導。その成果として、今まで学校がなかった地域に重点が置かれるようになったほか、中途退学の防止や学習意欲の向上を促進するモニタリング機能などが学校運営に加えられた。またこの方法に基づき、新設・既存の約7,000のノンフォーマル小学校、約6,500の成人識字センターが運営される予定だ。

一方、国内総生産の約21%を占め、労働人口の約45%が従事する農業。全農地の8割以上を占める灌漑農地では、インフラの未整備や農業技術の遅れにより農作物の生産性が低下していた。そこで、国内最大の穀倉地帯であり

世界有数のインダス灌漑システムを有するパンジャブ州を対象に、JICAは円借款を通じ、老朽化した灌漑水路などの施設を改修。また技術協力と連携して、農民の組織化に向けた指導員の養成や指導マニュアルの作成、モデル圃場における節水灌漑農業技術の展示・普及などを実施。農家が自主的に末端灌漑施設を維持管理できるようになることや、水を効率的に利用するための農業技術の向上を目指している。

またパキスタンは、今年7月下旬からの雨で甚大な洪水被害に見舞われ、被災者が約2,100万人にも上っている。JICAは、テントや浄水器などの緊急援助物資を送ったほか、衛生環境の悪化から感染症の拡大の恐れがあったため、9月にはパンジャブ州へ国際緊急援助隊(JDR)医療チームを派遣した。



南部にある世界遺産「モヘンジョダロ」は、インダス文明最大にして最古の都市遺跡。



農業は国内総生産の約21%、労働人口の約45%を占める。小麦、コメ、サトウキビ、トウモロコシなどが主要な農作物。



首都：イスラマバード
面積：79.6万km²(日本の約2倍)
人口：1億6,166万人(2008年)
公用語：英語、ウルドゥー語(国語)
宗教：イスラム教(国教)
1人当たり国民総所得(GNI)：1,046ドル(2008年)
経路：直行便はなく、北京やバンコク、クアラルンプール経由が一般的。
通貨：パキスタン・ルピー(PKR) 1PKR=約1円(2010年9月現在)
気候：0~8,600mと標高差が大きく、地域によって気候は異なる。中部では夏(6~8月)に40度の猛暑、北部の山岳地帯では冬(12~2月)に氷点下になることもある。

クリケットが最も人気のあるスポーツ。1992年と2009年には、代表チームがワールドカップで優勝を果たしている。



北部の山岳地帯には、雄大なヒマラヤ山脈がそびえ、エベレストに次ぐ世界2位の高峰K2など、8,000メートル級の山々を擁する。



ラージブート
〒169-0075
東京都新宿区高田馬場4-13-12
東海ビル2F
TEL: 03-3360-8372
11時半~23時
年中無休

- 〔チキンビリヤニ〕
〔材料(2人前)〕
鶏肉500g / バスマティ米長粒種の香り米(2合) / タマネギ1個 / ニンニクペースト大さじ1 / ショウガペースト大さじ1 / トマト2個 / 青トウガラシ6本 / ビリヤニマサラ適量 / 塩大さじ2 / ヨーグルト100g
- 〔作り方〕
1. タマネギをみじん切りし、油でキツネ色になるまでいためた後、水少量を加え、ビリヤニマサラ、ヨーグルト、ショウガ、ニンニクを入れ、5~6分混ぜる。
2. 鶏肉、塩を加えよく混ぜる。
3. コメを水に約20分間つけた後、水2リットルを鍋で沸騰させ、コメを入れる。1分ほど経ったら水から出す。(少し芯が残ったままでOK)
4. 鍋に2センチほどの厚さにコメを敷き、その上に2、コメ、2の順に4層に重ねる。
5. 適当な大きさに切った青トウガラシ、トマトを乗せ、ぬれタオルをかぶせてフタをしたら、弱火で20~25分程炊き込む。
☆ヨーグルトにブラックペッパー、塩、クミンをお好みで混ぜればソースの出来上がり。

パキスタン料理 スパイスたっぷりの炊き込みご飯 「チキンビリヤニ」



パキスタンの食文化は、インド、アフガニスタンといった隣国の影響を受け、土地によって味付け、調理法がさまざま。インドに接する東部ではスパイスをふんだんに使った辛いカレー、中東に近い西部ではケバブがよく食べられる。また、南部のカレーはスープ状のものが多いが、東部では水気がないのが特徴だ。

東京・高田馬場駅近くにある「ラージブート」では、東部パンジャブ地方の郷土料理が楽しめる。この地域では、2~3種類のカレーをチャパティ(薄焼きのパン)やライスとともに食べるのが一般的。中でも、スパイスの効いた炊き込みご飯「ビリヤニ」は、カレーとの相性が抜群な一品。ブレンドされたスパイスの濃厚な香りとチキンのうまみが口いっぱいに広がり、ピリッと刺激的な味。結婚式などお祝いの席で出されるおもてなしの定番メニューだ。ヨーグルトソースをかけながら食べるのが地元流。酸味が加わると辛さが和らぎ、二度楽しめる。